



▽ドリル痕
大岩の手动ドリル痕

▽ドリル痕
明治新道5段目の
手动ドリル痕のある大岩

▽ドリル痕
大岩の手动ドリル痕

▽塚
街道▽
十八坂九十九折の手前にある塚
(南東から)

明治新道の道幅の調査

明治新道の道幅や道の造成方法などを明らかにするために十八坂九十九折で発掘調査を行いました。文献では明治新道の道幅は荷車がすれ違えるように道幅15尺(4.5m)であったとされています。

岩が少ない部分に道に直交して幅1m、長さ5mのトレンチを4段目(1トレンチ)と3段目(2トレンチ)に2か所設定し発掘調査を行いました。

1トレンチの道幅は谷側の法面の一部が崩落し3.36mと狭いものでしたが、2トレンチでは4.58mと文献で見られた道幅が確認できました。両トレンチでは道を造成するために山側の地山の層を削っていて、2トレンチではその反対側の路肩に削った土を盛っていて道幅が確保されています。

1トレンチはこの盛土が崩れていて道幅が狭かっ

たものと考えられます。

また、2つの時代の道の法面を補強している石積みも見つかりました。天保古道の石積みは丸石積みであり、明治新道の石積みは人頭大の割り石であるという違いがありました。

一方、明治新道に特徴的なものとして、手动ドリルの痕が残る岩が18個点在していることがわかりました。手动ドリルは明治新道の工事に用いられていましたが、その痕跡のある岩は今まで「火薬跡」でしか見つかっていませんでした。十八坂は大きな岩が多く、容易に移動したり鑿で削岩したりできないようなものは手动ドリルで1インチ(約25mm)の穴を掘り、その穴に火薬を仕掛けて破壊し、道幅を確保していたものと考えられます。

V 歴史の道 八十里越



トレンチ掘削作業

2トレンチ完掘状況(南から)

2トレンチ完掘状況(東から)



トレンチ掘削作業

天保古道の石積み
(明治新道5~6段目の間)

天保古道の石積み
(明治新道5~6段目の間)

天保古道と路肩の石積み
(明治新道5~6段目の間)



明治新道6段目路肩の石積み

明治新道6段目路肩の石積み

明治新道3段目路肩の石積みと
手动ドリル痕のある大岩

明治新道3段目路肩にある塚